

基本計画書

基本計画										
事項	記入欄								備考	
計画の区分	研究科の設置									
フリガナ設置者	ガッコウケンブン ブンギョウガクイン 学校法人 文京学院									
フリガナ大学の名称	ブンギョウガクインダクイガクダクイン 文京学院大学大学院									
大学本部の位置	東京都文京区向丘1丁目19番1号									
大学の目的	文京学院大学は、「自立と共生」の建学の精神に則り、教育基本法ならびに学校教育法に基づき、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、社会の発展に寄与するところ豊かな人間の育成を目的とする。									
新設学部等の目的	非営利組織の代表的領域である福祉医療分野の専門職と、その組織を経営・管理する人材、さらには福祉医療事業を創業しようとする起業家人材に対して、経営学の基礎的な知識を提供し、専門職の能力を組織として生かすことで、専門職人材の自己実現と組織価値の最大化を目指す。階層化と細分化した専門職間のコミュニケーションを円滑化し、社会的企業や行政サービスの目的の探索とその達成の効率性を高めることを目的とする。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	専門職大学院	
	福祉医療マネジメント研究科	年	人	年次人	人	福祉医療マネジメント修士（専門職）	年月 第年次	東京都文京区向丘1丁目19番1号		
	福祉医療マネジメント専攻	2	50	—	100	令和6年4月 第1年次				
計	2	50	—	100						
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	なし									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
	福祉医療マネジメント研究科 福祉医療マネジメント専攻（専門職大学院）	講義	演習	実験・実習	計	40 単位				
教員	学部等の名称		専任教員等					兼任員等		
	新設分	福祉医療マネジメント研究科 福祉医療マネジメント専攻（専門職大学院）	教授	准教授	講師	助教	計	助手	任等	
		計	11 (10)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	15 (14)	0 (0)	20 (20)	
	組織の概要	既設	経営学研究科 経営学専攻（修士課程）	13 (13)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	11 (11)
		人間学研究科 人間学専攻（修士課程）	12 (12)	8 (8)	0 (0)	0 (0)	20 (20)	0 (0)	2 (2)	
		人間学研究科 心理学専攻（修士課程）	9 (9)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	8 (8)	
		外国語学研究科 英語コミュニケーション専攻（修士課程）	8 (8)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	4 (4)	
		保健医療科学研究科 保健医療科学専攻（修士課程）	13 (13)	5 (5)	0 (0)	1 (1)	19 (19)	0 (0)	11 (11)	
		看護学研究科看護学専攻（修士課程）	8 (8)	6 (6)	1 (1)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	1 (1)	
	計	63 (63)	30 (30)	1 (1)	1 (1)	95 (95)	0 (0)	— (—)		
合計	74 (73)	34 (34)	1 (1)	1 (1)	110 (109)	0 (0)	— (—)			

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計	大学全体				
	事 務 職 員		113人	60人	173人					
	技 術 職 員		28	22	50					
	図 書 館 専 門 職 員		6	4	10					
	そ の 他 の 職 員		2	0	2					
	計		149	86	235					
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体				
	校 舎 敷 地	59,247.80 m ²	0.00 m ²	0.00 m ²	59,247.80 m ²					
	運 動 場 用 地	35,169.84 m ²	0.00 m ²	0.00 m ²	35,169.84 m ²					
	小 計	94,417.64 m ²	0.00 m ²	0.00 m ²	94,417.64 m ²					
	そ の 他	11,898.19 m ²	0.00 m ²	0.00 m ²	11,898.19 m ²					
	合 計	106,315.83 m ²	0.00 m ²	0.00 m ²	106,315.83 m ²					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体				
		63,921.87 m ² (63,921.87 m ²)	0.00 m ² (0.00 m ²)	0.00 m ² (0.00 m ²)	63,921.87 m ² (63,921.87 m ²)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	74室	31室	56室	15室 (補助職員0人)	2室 (補助職員0人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数		大学全体				
		福祉医療マネジメント研究科 福祉医療マネジメント専攻 (専門職大学院)		13 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	研究科単位での 特定不能なため 大学全体の数		
	福祉医療マネジメント研究科 福祉医療マネジメント専攻 (専門職大学院)	382,418 [49,702] (372,798 [49,582])	509 [89] (509 [89])	34,860 [33,300] (34,860 [33,300])	10,704 (10,444)	10,264 (10,264)	3,096 (3,096)			
	計	382,418 [49,702] (372,798 [49,582])	509 [89] (509 [89])	34,860 [33,300] (34,860 [33,300])	10,704 (10,444)	10,264 (10,264)	3,096 (3,096)			
図 書 館		面積	閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数	大学全体					
		4,054.92m ²	574	480,306						
体 育 館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要		大学全体					
		3,139.25m ²	テニスコート3面 フットサルコート1面							
経 費 の 見 積 り 及 び 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	申請研究科全体 ただし共同研究 費等は大学全体
		教員1人当り研究費等		500千円	500千円	-千円	-千円	-千円	-千円	
		共同研究費等		15800千円	15800千円	-千円	-千円	-千円	-千円	
		図書購入費	496千円	0千円	0千円	-千円	-千円	-千円	-千円	
	設備購入費	11430千円	3300千円	3300千円	-千円	-千円	-千円	-千円		
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
		1100千円	900千円	-千円	-千円	-千円	-千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常経費補助金、資産運用収入、雑収入 等							

大学等の名称	文京学院大学							
	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
既設大学等の状況	経営学部					1.00		
	経営コミュニケーション学科	4	260	-	1040	1.00	平成3年度	東京都文京区向丘1丁目19番1号
	人間学部					0.94		
	コミュニケーション社会学科	4	60	-	240	1.16	平成15年度	埼玉県ふじみ野市亀久保1196番地
	児童発達学科	4	130	-	520	0.78	平成15年度	
	人間福祉学科	4	110	-	440	0.83	平成15年度	コミュニケーション社会学科と人間福祉学科福祉マネジメントコースのみ
	心理学科	4	100	-	400	1.12	平成15年度	(1~2年次) 埼玉県ふじみ野市亀久保1196番地 (3~4年次) 東京都文京区向丘1丁目19番1号
	外国語学部					0.89		
	英語コミュニケーション学科	4	260	-	1040	0.89	平成13年度	東京都文京区向丘1丁目19番1号
	保健医療技術学部					0.98		
	理学療法学科	4	80	-	320	0.99	平成18年度	埼玉県ふじみ野市亀久保1196番地
	作業療法学科	4	40	-	160	0.80	平成18年度	埼玉県ふじみ野市亀久保1196番地
	臨床検査学科	4	80	-	320	0.98	平成18年度	(1年次) 埼玉県ふじみ野市亀久保1196番地 (2~4年次) 東京都文京区向丘1丁目19番1号
	看護学科	4	100	-	400	1.06	平成26年度	(1年次) 埼玉県ふじみ野市亀久保1196番地 (2~4年次) 東京都文京区向丘1丁目19番1号
	大学院							
	経営学研究科					0.56		
	経営学専攻	2	30	-	60	0.56	平成9年度	東京都文京区向丘1丁目19番1号
	人間学研究科					0.46		
	人間学専攻	2	10	-	20	0.45	平成11年度	埼玉県ふじみ野市亀久保1196番地
	心理学専攻	2	20	-	40	0.47	平成13年度	
	外国語学研究科					0.55		
	英語コミュニケーション専攻	2	10	-	20	0.55	平成17年度	東京都文京区向丘1丁目19番1号
	保健医療科学研究科					1.02		
保健医療科学専攻	2	20	-	40	1.02	平成22年度	東京都文京区向丘1丁目19番1号	
看護学研究科					0.40			
看護学専攻	2	10	-	20	0.40	令和3年度	東京都文京区向丘1丁目19番1号	
附属施設の概要	該当なし							

教育課程等の概要																	
(福祉医療マネジメント研究科 福祉医療マネジメント専攻)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
必修科目	福祉医療マネジメント	ビジネスプラン	1前	2				○			1	2				共同・集中・メディア メディア	
		課題プロジェクト研究	2後	2				○			7	2					
		小計(2科目)	—	4				—			7	3					
選択必修科目	基礎	マネジメント	経営学Ⅰ	1・2前・後	2			○			1					※演習・メディア	
			経営学Ⅱ	1・2前・後	2			○			1					※演習・メディア	
			マーケティング概論	1・2前	2				○			1				※演習・隔年・メディア	
			事業戦略論	1・2前	2				○			1				※演習・隔年・メディア	
			起業論	1・2前	2				○				1			※演習・メディア	
	人と組織のマネジメント		企業者論(社会起業家論)	1・2後	2				○			1					※演習・メディア
			ホスピタリティ・マネジメント	1・2前	2				○						兼1	※演習・メディア	
			経営組織論Ⅰ	1・2前	2				○						兼1	※演習・メディア	
			経営組織論Ⅱ	1・2後	2				○						兼1	※演習・メディア	
			経営組織論Ⅲ	1・2前	2				○						兼1	※演習・メディア	
			経営組織論Ⅳ	1・2後	2				○						兼1	※演習・メディア	
			人的資源管理論	1・2前・後	2				○			1				※演習・メディア	
			人材マーケティングⅠ	1・2前	2				○						兼1	※演習・メディア	
			人材マーケティングⅡ	1・2後	2				○						兼1	※演習・メディア	
		リーダーシップとコーチング	1・2前	2				○						兼1	※演習・メディア		
	数財 量計 分・ 析		会計学基礎A	1・2前	2				○							兼1	※演習・メディア
			会計学基礎B	1・2前	2				○						兼1	※演習・メディア	
			企業財務論	1・2後	2				○			1	1			※演習・共同・メディア	
			ビジネス定量分析	1・2前	2				○						兼1	※演習・メディア	
	コ 情 報 テ ン D ツ X ・ 関 係 科 目		情報処理Ⅰ	1・2前	2				○			1					※演習・メディア
			情報処理Ⅱ	1・2後	2				○			1					※演習・メディア
			情報処理Ⅲ	1・2前	2				○						兼1	※演習・メディア	
			情報処理Ⅳ	1・2後	2				○						兼1	※演習・メディア	
			DX(ICT)基礎	1・2後	2				○						兼1	※演習・メディア	
			DX応用	1・2前	2				○						兼1	※演習・メディア	
			コンテンツ・プロデュース	1・2後	2				○						兼1	※演習・メディア	
	異 文 化 と 法		異文化マネジメント	1・2後	2				○						兼1	※演習・メディア	
			異文化コミュニケーション	1・2前	2				○						兼1	※演習・メディア	
			グローバルビジネスと法	1・2前	2				○			1				※演習・メディア	
			外国人と法	1・2後	2				○			1				※演習・メディア	
		小計(31科目)	—	62				—			7	1	0	0	0	兼11	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
選択必修科目 実践・応用科目	福祉医療共通コア科目	ヘルスケア経営学	1・2 前・後	2		○			1						兼1	※演習・メディア	
		医療・介護ビジネス論Ⅰ	1・2後	2		○									兼1	※演習・メディア	
		医療・介護ビジネス論Ⅱ	1・2前	2		○										兼1	※演習・メディア
		ヘルスケアデータサイエンス概論	1・2後	2		○			1								※演習・メディア
		メディカルスタッフ経営学Ⅰ	1・2 前・後	2		○				1							※演習・メディア
		メディカルスタッフ経営学Ⅱ	1・2 前・後	2		○				1							※演習・メディア
		福祉医療の戦略経営Ⅰ	1・2 前・後	2		○			1								※演習・メディア
		福祉医療の戦略経営Ⅱ	1・2 前・後	2		○			1								※演習・メディア
		病院・介護事業経営	1・2後	2		○										兼1	※演習・メディア
		地域包括ケアと多職種連携イノベーション	1・2前	2		○			1								※演習・メディア
		コミュニティ・ヘルス	1・2後	2		○										兼1	※演習・メディア
		在宅医療論	1・2前	2		○										兼1	※演習・メディア
		労務管理実務	1・2前	2		○										兼1	※演習・メディア
	非営利組織の管理会計	1・2後	2		○										兼1	※演習・メディア	
	福祉マネジメント	ソーシャルワークの基盤と展開	1・2後	2		○				1						兼1	※演習・メディア
		ソーシャルワークの理論と実際	1・2後	2		○				1						兼1	※演習・メディア
		メディカルソーシャルワーク論	1・2前	2		○				1						兼1	※演習・メディア
		高齢社会の福祉医療	1・2後	2		○										兼1	※演習・メディア
		高齢者福祉とマネジメントⅠ	1・2前	2		○			1							兼1	※演習・メディア
		高齢者福祉とマネジメントⅡ	1・2後	2		○			1							兼1	※演習・メディア
		高齢者介護施設のリスクマネジメント	1・2前	2		○										兼1	※演習・メディア
		社会福祉施設論	1・2後	2		○				1							※演習・メディア
		福祉人材養成論	1・2前	2		○				1							※演習・メディア
		スーパービジョンの理論と展開	1・2前	2		○				1							※演習・メディア
	フィールドワーク特講	1前	2		○			2								※演習・オムニバス ・共同(一部)・メディア	
	医療マネジメント	医療管理学Ⅰ	1・2後	2		○			1							兼1	※演習・メディア
		医療管理学Ⅱ	1・2前	2		○			1							兼1	※演習・メディア
		疫学・公衆衛生学特論	1・2後	2		○			1							兼1	※演習・メディア
		グローバルヘルスⅠ	1・2前	2		○			1							兼1	※演習・オムニバス ・共同(一部)・メディア
		グローバルヘルスⅡ	1・2後	2		○			1							兼1	※演習・共同・メディア
		メディカル人材開発論Ⅰ	1・2前	2		○										兼1	※演習・メディア
		メディカル人材開発論Ⅱ	1・2後	2		○										兼1	※演習・メディア
		メディカル人材開発論Ⅲ	1・2前	2		○										兼1	※演習・メディア
		メディカル人材開発論Ⅳ	1・2後	2		○										兼1	※演習・メディア
		国際医療人材開発論Ⅰ	1・2後	2		○										兼1	※演習・メディア
	国際医療人材開発論Ⅱ	1・2前	2		○										兼1	※演習・メディア	
	病院会計	1・2前	2		○										兼1	※演習・メディア	
小計(37科目)	—	0	74	0	—			5	3	0	0	0	0	兼12			
合計(70科目)	—	4	136	0	—			11	4	0	0	0	0	兼20			
学位又は称号	福祉医療マネジメント修士(専門職)		学位又は学科の分野			経済学関係											
卒業要件及び履修方法						授業期間等											
必修科目4単位、選択必修基礎科目から8単位以上、選択必修実践・応用科目が8単位以上を取得し、合計40単位以上修得すること。 選択科目として他研究科科目を10単位まで履修することができる。						1 学年の学期区分		2 期									
						1 学期の授業期間		1 5 週									
						1 時限の授業時間		9 0 分									

授 業 科 目 の 概 要					
(福祉医療マネジメント研究科 福祉医療マネジメント専攻)					
科目区分	授業科目の名称		講義等の内容	備考	
必修科目	福祉医療マネジメント総合科目	ビジネスプラン	<p>実際の福祉医療組織を題材として、社会が求める事業の探求と解決手法を探る。25名のクラスを5グループに分け、社会が求めるモノや組織の問題点を発見し、環境要因を考慮した課題解決方法を構築する。チーム内で知識を出し合い、課題と解決手段の因果関係を考察する。</p> <p>実務上、プランは実施により検証されるが、授業では、定期的にPDCAを回すことで問題点をメンバーで共有し、効率的組織と創造的アイデアを実現する発展的組織の構築方法を考える。</p> <p>情報共有のために、調査方法や分析手法も学習する。また、グループ毎に組織をつくることで、意思決定や権限と責任、リーダーシップとフォロワーシップ、プレゼンテーションの方法などを学修する。</p>	共同・メディア	
		課題プロジェクト研究	<p>本研究科で修得した知識を集約して、各自が解決すべき職場等の課題発見と解決方法の提案を行う。実務上の課題がテーマとなるため、制約条件は具体的内容となる。</p> <p>課題プロジェクトは3～5名程度の授業で教員と学生相互の意見交換をしつつ、プレゼンテーションのための報告資料にまとめられる。担当教員は、チームによるプロジェクトの取り組みが、個人単独の成果に比較してシナジー効果が生まれるようなコーディネーターの役割となる。</p> <p>最終成果は、研究科の教員と学生が参加する最終審査会で発表され、評価を受ける。</p>	メディア	
選択必修科目	基礎科目	マネジメント基礎	経営学Ⅰ	<p>福祉医療分野の実務家にとって必要な経営学の基礎を学ぶ。経営学は、経営戦略論、経営管理論、経営組織論、マーケティング論などの企業経営全般を認識対象とする学問や、財務・会計、人事・労務、購買、生産、販売といった各職能に特化した学問領域がある。</p> <p>また、経済学や社会学、心理学などの異なる分析視点から考察される学際的研究である。</p> <p>こうした多面的な経営学を営利法人と非営利法人の両方の視点から考察し、経営学で用いられる専門用語を理解し、多職種連携のための共通言語として利用できるようにする。</p>	講義 21 時間 演習 9 時間 メディア
			経営学Ⅱ	<p>現代の企業経営は、様々なステークホルダーの調整が必要である。株式会社であれば、株主、従業員、顧客、取引先企業、金融機関、地域住民、政府などがステークホルダーである。非営利法人には株主はいないが、寄付者やその他の資金提供者が存在する。</p> <p>経営者や管理者は、企業の目的を遂行するために、様々なステーク</p>	講義 18 時間 演習 12 時間 メディア

			ホルダーとの調整が求められる。ステークホルダーは、企業を取り巻く内外環境を構成しており、企業の社会的責任（Corporate Social Responsibility：CSR）やコーポレート・ガバナンスなどの視点を学ぶ必要がある。ステークホルダーの役割を確認し、企業の社会性と経済性との関連など、SDGs や ESG 概念を踏まえて学ぶ。	
		マーケティング概論	本授業においては、マーケティングに関する基礎的な知識・知見を身につけたうえで、実際の例をケース・スタディとして参照しながら、マーケティング戦略の有効性について研究する。基礎的な知識・知見を踏まえた上で、身近な企業・商品・サービスを例にとり、マーケティング活動のあるべき姿を考察する。	講義 24 時間 演習 6 時間 隔年・メディア
		事業戦略論	本授業においては、急速にグローバル化するビジネス社会で勝ち抜くための事業戦略についての研究を行う。効果的な事業戦略の構築には、競争環境・自社事業・顧客についての適切な理解が不可欠である。この際の理解に求められる、ビジネス戦略における基礎的な概念・フレームワーク等を身近な戦略事例を例にとり、ビジネス戦略のあるべき姿を考察する。	講義 24 時間 演習 6 時間 隔年・メディア
		起業論	本授業では、会社の立ち上げから成長期までに起業家が直面する経営課題について、理論的な考察を踏まえながら解決策を検討する。多くの起業家は、未経験かつ予想できなかった困難の対応に追われる中で、事業活動が停滞するという憂き目を見る。経営資源が圧倒的に少ない状況において起業家に求められる意思決定と直面する諸問題・その解決方法について、起業研究の知見や起業家の分析ケースを共有しながら学修する。	講義 21 時間 演習 9 時間 メディア
人と組織のマネジメント	企業者論（社会起業家論）	いずれの企業組織にも目標やミッション（使命・任務）が求められる。この授業では、非営利組織の目標やミッションを考察し、それを実現するためのマネジメントを学ぶ。私利私欲と公益の追求を同時に追求めた渋沢栄一と渋沢の人材育成に着目した P.F. ドラッカーの経営思想から始まり、最近の理論等を用いて非営利組織のリーダーシップ、イノベーション、人のマネジメント、構成員の成長等、リーダーが率先すべき事柄を取り扱う。非営利組織のマネジメント理論や一般的なリーダーシップの理論のエッセンスを学びながら、職場や関わってきた組織で必要とするマネジメントやリーダーシップの課題とその改善を履修者自身が考え提案する形式で理解を深める。	講義 21 時間 演習 9 時間 メディア	
	ホスピタリティ・マネジメント	「医療はサービス業である」と平成 7 年の厚生白書が掲げて以来、医療機関のみならず、福祉医療分野の多くがサービス業としての自覚を持ち、さらに一歩進めて、ホスピタリティ・マネジメントを導入している。経営課題の一つに接遇の改善があるが、顧客・患者満足度が十分向上しているとは言えぬ状況にある。本授業は経営者や従事者を対象に、顧客・患者やスタッフの満足度が改善し、選ばれる組織となることを目標に、ホスピタリティ概念の修得、経営技能	講義 18 時間 演習 12 時間 メディア	

			のトレーニングを行う。キーワードはエンゲージメント、ダイバシティ、キャリアデザイン。	
		経営組織論Ⅰ	経営管理において、組織で働く人々の行動を理解することは、不可欠である。本科目では、組織の仕組みについて基礎的な知識を身につけ、組織論や組織行動の視点をを用いて、現代のマネジメント上の課題や問題を考察する。本科目は、組織で働く人々が、組織とどのように関わり、行動するのかを、組織論・組織行動の観点から理解することを目的とする。	講義 21 時間 演習 9 時間 メディア
		経営組織論Ⅱ	本科目では、組織論及び組織行動論の基礎的な知識を身につけたうえで、現代のマネジメント上の課題や問題に対する理解を深めることを目的とする。特に、日本企業の組織上の特徴を理解し、その仕組みや直面している課題や問題などを通して、現代のビジネス環境や職場環境の課題や問題について考える。組織論や組織行動論などの知識を使って、実際の企業の具体的事例を考察する力を身につける。	講義 21 時間 演習 9 時間 メディア
		経営組織論Ⅲ	本科目では、組織論の基礎的な知識を学んだうえで、営利・非営利組織の仕組みや働く人の特徴について考え、マネジメントの課題や問題点について理解を深める。 特に、働く人に注目し、営利や非営利組織で求められる人材や働き方、それにとまう組織の人材管理や育成、活用の違いに関して、事例を用いながらディスカッションし、受講者の分析力と考察力を高めていく。	講義 24 時間 演習 6 時間 メディア
		経営組織論Ⅳ	組織における人の行動に関する諸理論を体系的に理解したのちに、組織と働く人の双方の視点から、人がモチベーションを高めて主体的に活動する組織について考えを深める。組織行動の理論をベースに、営利・非営利組織で働く人の気持ち・感情、特性、協働のあり方について、比較検討し、各々の組織の強みや弱みを理解して、意欲的に仕事へ取り組む意義と価値を考える力を身につけることを目指す。	講義 24 時間 演習 6 時間 メディア
		人的資源管理論	人的資源管理 (Human Resources Management:HRM) の基本的な方法論とカレント・イシューを共有する。HRM は、グローバルな慣行と国内の慣行の乖離が顕著な分野である。日本では、メンバーシップ型雇用慣行に加えヘルスケア分野ならではの制度的な特殊事情があり、グローバルなジョブ型雇用慣行との乖離を際立たせている。本授業では、これらの人的資源に関する乖離現象や特殊事情を捉え、HRM に関する分野すなわち、雇用区分、社員格付け、多職種連携、採用、教育訓練、配置転換、昇進・昇格、人事評価、賃金管理、キャリア開発、福利厚生、ワークスタイル等について議論してゆく。こうした知見をベースにして、参加者は、各人の身近な医療機関、福祉系組織、企業や職場の事例をとりあげ、実態や課題について報告・議論する。これらを通じ、HRM にかかわる理論や議論を踏まえ	講義 21 時間 演習 9 時間 メディア

			て、積極的にディスカッションを加え、ヘルスケア HRM の現状や課題について考え、対策を講じる知力を養うものとする。	
		人材マーケティング I	<p>少子高齢化や共働き家庭の増加、AI、デジタル化などの影響を受け、様々な業界で顧客が求めるニーズやサービス像に大きな変化が起こっている。</p> <p>人材マーケティング I では、様々な業界の商品・サービス開発や顧客分析に基づき、今後の社会で求められる福祉医療サービス人材とその開発に向けた視点やスキルを学ぶ。適宜、事例研究や履修者同士のディスカッションなどを交え、次世代の人材マーケティングを幅広い視点から捉えられる基礎的能力を育む。</p>	<p>講義 24 時間</p> <p>演習 6 時間</p> <p>メディア</p>
		人材マーケティング II	<p>人材マーケティング I と同様に、我々を取り巻く社会環境の変化は、働き方にも影響を与え、希少資源である人材（人財）の配分に偏りや歪みを生じさせている。</p> <p>人材マーケティング II では、従業員研修や人材マッチング事業の現状から、今後の社会で求められる採用マーケティングや雇用マッチング等の視点を学ぶ。履修者同士のディスカッションや事例研究を交え、次世代の人材マーケティングを自律的に発想できる応用力を身に着ける。</p>	<p>講義 24 時間</p> <p>演習 6 時間</p> <p>メディア</p>
		リーダーシップとコーチング	<p>医療福祉現場のリーダーには、患者のケアを行いながら、「ビジョンや価値を伝える」「メンバーを前進させ成長させる」「人の特性を活かす」といった役割が求められる。授業では、医療現場で発生する日々の課題解決や業務改善を行うために、個々人に適したリーダーシップスタイルを探求するための知識の修得に加えて、職場で部下や後輩らチームメンバーの能力や自発性を引き出すコミュニケーション能力としてのコーチングの基礎スキルを演習形式で行う。</p>	<p>講義 18 時間</p> <p>演習 12 時間</p> <p>メディア</p>
会 計 ・ 財 務 ・ 数 量 分 析		会計学基礎A	<p>「会計は経営の羅針盤」と言われる通り、多様な実務を数値化し、客観化しなければ各職能間の共通尺度がつかれない。福祉医療技術が優れていても、顧客や患者満足度が高くても、地域に長く福祉医療を提供するためにはその基礎となる経営が盤石でなければ継続できない。経営を数値化する会計を知ることによって経営の問題点や解決策を論じることができる。授業形態はスクール形式とグループワーク形式をミックスして行い、福祉医療からは離れた会計というものを身近に感じてもらえる授業とし、財務諸表を俯瞰して読めるようにする。</p>	<p>講義 21 時間</p> <p>演習 9 時間</p> <p>メディア</p>
		会計学基礎B	<p><注意></p> <p>本講義は昼開講科目となる。</p> <p><授業概要></p> <p>会計はビジネスの言語であるといわれる。営利、非営利を問わず、経営組織をめぐる社会環境は益々複雑化してきており、経営管理ツールとしても特に有用な、会計の仕組みや手法などについてよく理解しておく必要がある。本授業では会計の基礎理論について、組織</p>	<p>講義 27 時間</p> <p>演習 3 時間</p> <p>メディア</p>

			マネジメントを計数的に認識・測定することができるよう、制度と実践の両側面から学習することによって、会計の物の考え方・見方を身に付ける。	
		企業財務論	<p>企業の資金調達と運用に関する基礎的な理論を学ぶ。事業価値と事業を構成する投資プロジェクトを評価するために、資本コストの概念を学び、現在価値法と企業評価の基礎理論を実務で応用する際の注意点を確認する。</p> <p>併せて、企業評価にかかわる諸指標として、ROA（総資産利益率）、ROE（株主資本利益率）などの収益性分析、自己資本比率、流動比率、当座比率などの安全性分析や損益分岐点分析、市場と財務諸表との関係を示すPER（株価収益率）やPBR（株価純資産倍率）などの企業経営に関する評価指標と資本コストの関連性についても学ぶ。</p>	<p>講義 24 時間 演習 6 時間 共同・メディア</p>
		ビジネス定量分析	<p>ビジネスにおいて必要な数量的分析に基づく意思決定の手法を修得する。本授業が対象とする意思決定は戦略的意思決定と管理的意思決定に関する領域である。状況に応じた意思決定の手法について理解し、経営管理に役立てることが出来ること、設備投資や人的資源への投資などに際して論理的に意思決定が出来ることを目指した内容である。</p> <p>具体的には、ペイオフ表を用いた意思決定、リアルオプションを用いた意思決定、デシジョンツリーを用いた意思決定、ロジカルシンキングによる意思決定、損益分岐点分析とNPVによる投資に係る意思決定及び財務分析による投融資判断などの基礎的説明を行う。</p>	<p>講義 27 時間 演習 3 時間 メディア</p>
情報・DX・コンテンツ関係科目	情報処理 I	現代の情報科社会に必須な情報リテラシーとして、インターネット関連法規やサイバーセキュリティの基礎知識を学び、パソコンや周辺機器の基本操作、ワープロソフトによるビジネス文書作成とプレゼンテーションソフトによるスライド作成の演習を行う。	<p>講義 18 時間 演習 12 時間 メディア</p>	
	情報処理 II	「情報処理 I」に引き続き、現代の情報科社会に必須な情報リテラシーとして、表計算ソフトの活用を学ぶ。一般的なビジネス目的の表やグラフ作成スキルを身に付ける。更に、データドリブン社会への対応のために、基本統計量を中心に扱う演習も行い、経営や医療情報処理の基礎能力を培う。	<p>講義 18 時間 演習 12 時間 メディア</p>	
	情報処理 III	本授業では、数多ある「人工知能に関する工学的基礎概念」の中から、特に重要なトピックである「探索・論理と推論・機械学習・自然言語処理」を取り上げ、該当する課題が与えられた場合の解決力の習得を目指す。また、「認知科学」や「哲学的論考」についても取り上げ、人工知能に対するより深い理解と幅広い知識の習得を目論む。	<p>講義 24 時間 演習 6 時間 メディア</p>	
	情報処理 IV	インターネットが企業活動において不可欠になった現在、情報セキュリティの脅威への対処は重要な課題である。セキュリティマネジメント学は、経済学や法学、行動科学など様々な分野と情報セキュ	<p>講義 24 時間 演習 6 時間 メディア</p>	

			リティが融合する学際的な分野である。本授業ではセキュリティマネジメントに関する理論と実例を修得することを目指す。	
		DX (ICT) 基礎	組織や企業の DX (digital transformation) の 2 つの経済的効果 (売上向上/効率化によるコスト低減) の意味を理解した上で、組織や企業の DX を実践するための要素である IT システム、IT 人材、IT 組織、IT 法務、IT 内部統制について整理理解する。その上で担当者が提唱する「IT 前提経営」の 6 大要素 (①デジタルネイティブ理解②モビリティ向上③働き方の効率化④クラウドサービスの適切な導入⑤AI*BigData*IoT⑥デジタルマーケティングの適切な運用) の概念を使い、多くのケースやストーリーを参照しながら議論をしていく。また基礎科目であるため、ICT に関する基礎的な概念、用語、歴史の修得も同時に行う。	講義 18 時間 演習 12 時間 メディア
		DX 応用	主に「DX (ICT) 基礎」の履修者 (又は同等程度に理解が及んでいる者) を対象にした応用科目である。事業を行う組織が DX (digital transformation) をする際に (1) どのような ICT を利用し (2) それをどのように組織に実装することで (3) 何が実現できるかについて、具体的なケースを使って説明し理解を促してしていく。特に「IT 前提経営」の 6 大要素の内の「IoT (モノのインターネット) *ビッグデータ*AI (人工知能)」については時間を割き、「デジタルツイン時代の現場オペレーション」について考える。また Web3 に代表されるような「デジタル文化」についても学び、デジタル文化の理解なくして DX の成功がないことを失敗事例から理解し、DX による「働き方改革」を伴う医療福祉事業における課題をディスカッションしていく。	講義 18 時間 演習 12 時間 メディア
		コンテンツ・プロデューサー	近年、プレゼンテーションやマーケティングの方法としてコンテンツを活用するケースが増えている。その成り立ちや構造を知る事により効果的な活用方法を学修する。 特に事業の基幹となるエンターテインメント作品群の実態を解説し、様々なコンテンツのビジネスを含めたケースを習熟、知財ビジネス等の構造力学の理解を促進し、コンテンツの実務能力の獲得を行う。その結果、具体的なコンテンツの立案を可能とするまでのスキルを養う。	講義 18 時間 演習 12 時間 メディア
		コンテンツ・知的財産論	「コンテンツ・プロデューサー」の発展としてコンテンツを製造・提供する企業側の経営モデルや、知的財産権上のメソッド群に対して実際のケースの検証を行う。特にトレンドのコンテンツの法理・道徳的諸問題を解説し、予算や知的財産権、スタッフニングなどの人材マネジメント等、様々な角度からの検討を行う。その結果、特にコンテンツにおける知財プロテクションの基礎構造を把握し、実際の知財リテラシーの獲得を目論む。具体的なコンテンツの予算編成を含めた製造の計画までを目的とする。	講義 18 時間 演習 12 時間 メディア
	異	異文化マネジメント	本科目は、異文化マネジメントの視点を用いて文化的に多様な場面	講義 21 時間

		文化 と 法		での課題や問題を理解することを目的とする。授業では、事例等を取り入れ、異文化マネジメントの学際的アプローチを用いて議論する。本科目を通して、学生が、異文化マネジメントの基礎的なモデルや理論を理解し、事例を考察できるようになること、また、文化やアイデンティティに関する問題を異文化マネジメントの視点から考察できるようになることを目指す。	演習 9 時間 メディア
		異文化コミュニケーション	本科目は、異文化コミュニケーション及びその学術的アプローチについて学ぶ。授業では、事例等を用いて、異文化コミュニケーション上の課題を議論し、分析する。 本科目は、学生が、コミュニケーションの基礎的な理論やモデル及び文化的価値観を理解し、それらの視点やアプローチを用いて、異文化コミュニケーション上の課題や問題を考察できるようになることを目指す。	講義 21 時間 演習 9 時間 メディア	
		グローバルビジネスと法	グローバルなビジネス展開における法的リスクや課題について考察する。グローバルなビジネス展開の類型を、モノ、サービス、情報（知的財産）、資本に分けて分析し、法的な側面からそれぞれのビジネスの特徴と課題を見つける。ビジネス法の基礎的な知識を習得したうえで、貿易実務、英文契約書の作成、ライセンス契約、企業の海外展開、国際商事紛争の解決メカニズムについて研究する。併せて、テクノロジーの発達に伴うビジネスの変化についても学習する。	講義 21 時間 演習 9 時間 メディア	
		外国人と法	日本で就労している外国人、または外国人を雇用している実務家が知っておくべき法律問題として、本授業では、外国人の在留資格、入管難民法、国籍の問題、外国人が関わる渉外事案（たとえば、契約、不法行為、労働事件、その他の渉外民事事事件）等を取り上げ、日本における外国人をめぐる様々な法的問題について考察する。本授業では、比較法的な観点から日本の外国人をめぐる法政策を検討し、課題について議論する。	講義 21 時間 演習 9 時間 メディア	
選 択 必 修 科 目	実 践 ・ 応 用 科 目	福 祉 医 療 共 通 コ ア 科 目	ヘルスケア経営学	ヘルスケア（保健・医療・福祉サービス）のマネジメントは、①ステークホルダー（患者、従業員、地域社会、取引先など）のウェルビーイング実現を主眼とする、②ヘルスケアという特殊なサービス財を対象とする、③ヘルスケアという準公共財を対象とする、④資本市場へのアクセスが制限されている、⑤医療政策、診療報酬制度等により経営資源の配分が誘導される等、競争の市場のもと一般産業用に開発されてきた伝統的な経営手法とは性格を異にする。医療サービスの価値は、生命、生活、人生などを含む探索的価値もあれば、良質な医療、安全な医療、効率を含める追求的価値もある。また、現在の医療サービスは、多職種連携によりヘルスケア関連の技術的新機軸を活用するという側面が強く、マネジメントの対象としてイノベーションの重要性が高まっている。本授業は、このような動向を押さえ、通常の医療管理学、先進的なサービス科学（Service	講義 24 時間 演習 6 時間 メディア

			Science)、ビジネス・モデリング論等の新旧におよぶ知見を踏まえて進めてゆく。本授業は毎回ごとにキー・クエスチョンを学生と教員とが共有し、議論を深める。一方通行のコンテンツ依存型の授業ではなく、対話によるディスカッションを重視して知識創造の場としての授業を進化・深化させてゆく。	
		医療・介護ビジネス論 I	大学院で学ぶべき経営学の各主要領域を医療・介護ビジネスに応用する。各回、経営戦略、マーケティング戦略、リーダーシップ、人・組織等の視点で授業を行い、併せて実際の医療機関や介護施設等のケーススタディーを通じて医療機関への分析・評価及び戦略策定を行う。PEST 分析、5F 分析、SWOT 分析、3C 分析、STP 分析等の基礎的なフレームワークを学び、これを医療・介護ビジネスに活用する。	講義 21 時間 演習 9 時間 メディア
		医療・介護ビジネス論 II	大学院で学ぶべき経営学の各主要領域を医療・介護ビジネスに応用する。II では、特に介護・ヘルスケアビジネスを対象とする。各回、経営戦略、マーケティング戦略、リーダーシップ、人・組織等の視点で授業を行い、併せて実際の医療機関や介護施設等のケーススタディーを通じて医療機関への分析・評価及び戦略策定を行う。I で学修した PEST 分析、5F 分析、SWOT 分析、3C 分析、STP 分析等のフレームワークの医療・介護ビジネスへの応用をさらに発展させ、より実践的レベルの分析と各自の課題解決に取り組む。	講義 21 時間 演習 9 時間 メディア
		ヘルスケアデータサイエンス概論	本授業では、反転学習とアクティブ・ラーニングを用いてヘルスケア情報学とイノベーションについて洞察を深めてゆく。ヘルスケア(保健・医療・福祉)分野で創発しているイノベーションを情報というダイナミックな視点からとらえてゆく。下記の英文テキストを反転学習モードで日本語に概要を翻訳・発表し、AI、深層学習、ロボティクス、センサー、遠隔医療を含む先端技術が新たな情報を生成し、新たな情報がイノベーションを創発させ、新たなイノベーションが新たな情報を生成している実態を多様な事例を通して学ぶ。また、「データ⇄情報⇄知識⇄知恵の連続線上」で各トピックに迫りデータサイエンス(Data Science)のベースラインを押さえてゆく。以上のような知的作業により、人間のみが生み出すことができる価値とはなんなのかを問う。また、本授業ではアクティブ・ラーニングとして学生によるグループワークを行い、先端的なデータを活用する/創出するイノベーション事例を検討する。情報学に関する前提知識は特に求めず、双方向性に富んだ授業と積極的なディスカッションにより、多くの気づきを共有したい。	講義 21 時間 演習 9 時間 メディア
		メディカルスタッフ経営学 I	医療・介護専門職者が経営学を学ぶ重要な目的は、「ヒト」、「モノ」、「カネ」、「情報」など限られた経営資源を有効に活用し、医療・介護施設として結果を出すことで組織の「価値」を高めることである。 しかし、これまでの医療機関においては、こうした組織の「価値」という視点が欠如しており、医療経営資源の有効活用が十分になされてこなかった。	講義 18 時間 演習 12 時間 メディア

			そこで本授業では、医療・介護領域の組織運営に関連した事象について、医療現場で働くプレイングマネージャーが、経営理論を用いて現場の課題や問題について、効率的な解決方法を選択するための経営学的論理的思考方法について考察する。	
		メディカルスタッフ経営学Ⅱ	<p>経営学的な論理的思考はいわば「公式」であり、医療・介護現場のリアルワールドでの目標達成や問題解決には、具体的な取り組みに落とし込み、理論と実践の両輪を回していくことが重要となる。</p> <p>一方、現在の医療・介護施設の運営では、経験則による意思決定が多く行われ、時として不合理な組織運営が行われている可能性が存在する。そのような事態を避けるためにも、現場における問題や課題を可視化し、可能な限りデータに基づいて現状を把握するために経営学を学び、経営理論を用いて効率的に解決に向けた最善策を選択できる能力が必要となる。</p> <p>よって、本授業では、メディカルスタッフにおいても、現場で情報を収集し問題を可視化できるよう、経営学を利用するための基礎的な統計分析や調査分析方法を紹介したうえで、現場で標準化可能な経営問題について、科学的・客観的な評価方法について学ぶ。</p>	<p>講義 18 時間</p> <p>演習 12 時間</p> <p>メディア</p>
		福祉医療の戦略経営Ⅰ	<p>本授業は、大きく3部構成されている。</p> <p>第1部として、我が国の福祉医療経営の現状を概観し、個々の施設経営の課題を抽出する。</p> <p>第2部として、それらの経営課題をどのように解決していくかを、戦略経営の立場から、社会性を組み込んだ戦略論を議論する。</p> <p>第3部として、戦略経営のツールとしてのバランスト・スコアカード (balanced scorecard : BSC) の基本を理解するために、BSC の基礎理論を分かり易く解説する。その後、これらの基礎事項の理解を踏まえて、福祉医療組織での BSC について、受講生の経験などを交えて議論していく。</p>	<p>講義 21 時間</p> <p>演習 9 時間</p> <p>メディア</p>
		福祉医療の戦略経営Ⅱ	<p>本授業では、福祉医療施設で、バランスト・スコアカード (以下 BSC) の基本的な使用方法である業績測定と評価の BSC、戦略マネジメントシステムとしての BSC、組織改革の BSC および拡張型 BSC として sustainability BSC、community BSC、クラスターBSC とセクターBSC に関して事例を検討する。さらに実際の福祉医療施設での BSC を作成時、導入時、運用時の代表的な課題とその解決策を受講生の問題意識と経験等から一緒に考えていく。</p>	<p>講義 18 時間</p> <p>演習 12 時間</p> <p>メディア</p>
		病院・介護事業経営	<p>病院経営と介護施設の経営を比較しつつ、両経営に共通する事項と相違する事項について分析し、両者の本質を考察する。株式会社を比較対象としつつ、病院および介護施設の目的、機能、組織を研究する。</p> <p>医療や介護を取り巻く環境を考えながら、病院経営・介護施設経営のこれから求められることを考察する。</p>	<p>講義 18 時間</p> <p>演習 12 時間</p> <p>メディア</p>
		地域包括ケアと多職種	<p>本授業では、急速に変貌している地域包括ケアシステムの姿と、そ</p>	<p>講義 24 時間</p>

		連携イノベーション	<p>のなかで進化する多職種連携の実態をイノベーション創発の視点からとらえてゆく。マクロの視点からは、キュアからケアへのシフト、病院中心から地域・在宅へのシフトを政策と経営の側面からとらえてゆく。ミクロ的な視点からは、クラウド経由でアクセスする多職種連携の実態を計測する尺度ツール等を用いて、(1) コンピテンシー、(2) 職場のソーシャル・キャピタル、(3) コラボレーティブ・リーダーシップ、(4) 組織学習、(5) 主観的幸福感(幸福経営)等のテーマをアクティブ・ラーニングとして掘り下げてゆく。マクロとミクロを架橋するメゾ的な視点からは、ヘルスケアマネジメント実践動向に注目して、医療・保健・福祉を一体的に経営する IHN (Integrated Health Network)のグローバル事例、国内事例を取り扱う。また本授業は、アクション・リサーチ、アクティブ・ラーニングを多用する。学生は、授業前にネット環境にアクセスして、所定の質問票に回答し、その結果を授業で共有してディスカッションを加える。</p>	<p>演習 6 時間 メディア</p>
		コミュニティ・ヘルス	<p>地域社会や地域共同体で生活する患者の健康や日常生活を医療の専門家でないコミュニティが担うための仕組み作りが各地で次々と生まれている。この取り組みが地域性や共同性が重要視される自治の一環として行われることで、コミュニティ自身も豊かになる。これがコミュニティ・ヘルスという概念である。</p> <p>この授業ではワークショップの実施やゲストスピーカーとのディスカッションを行うことによりコミュニティ・ヘルスについて考察することを目的とする。</p>	<p>講義 18 時間 演習 12 時間 メディア</p>
		在宅医療論	<p>在宅医療の必要性に関し、議論の余地はない。しかし「在宅医療とは何か」という問いに関しては回答者の背景によって相違があることも事実である。さらに、在宅介護に関しては営利企業を始め、多様な事業者が参加してきたことにより急速に充実している。この授業では医療と介護、その関連領域を取り上げつつ、この領域で活躍する実務家の事例を取り上げながら在宅医療の実態を考察し、履修者相互の意見交換を通じて、各自の考える在宅医療の定義を確立することを目的とする。</p>	<p>講義 18 時間 演習 12 時間 メディア</p>
		労務管理実務	<p>2018 年より働き方改革が進められてきたが、医療業界および介護業界などの福祉医療分野は様々な職種が混在しており、労働時間の管理をはじめとした労務管理上の問題が複雑化している。各職種の労務管理は一様ではなく、一方で同一労働同一賃金の問題が提起されている。その他、労働時間管理、外国人労働、ハラスメント等、多様な人事・労務管理上のテーマを取り上げ、主として病院や介護施設の事例をまじえて労務管理の在り方を考える。</p>	<p>講義 21 時間 演習 9 時間 メディア</p>
		非営利組織の管理会計	<p>本授業は、非営利組織の中でも主としてヘルスケア分野の経営管理者に必要とされる管理会計の基本的な考え方を修得する。</p> <p>簿記会計の基礎知識として、財務諸表分析、原価管理、損益分岐点</p>	<p>講義 24 時間 演習 6 時間 メディア</p>

		分析、ファイナンスの基礎概念、設備投資の意思決定、資金計画表の作成、バランスト・スコアカード(BSC)による目標管理などを解説し、業績管理のための会計的手法と経営意思決定のための会計的手法を考察する。 管理会計の手法を履修者自らが使えるようにする。	
福 祉 マ ネ ジ メ ン ト	ソーシャルワークの基盤と展開	社会福祉士や精神保健福祉士といったいわゆるソーシャルワーク専門職は、近代社会がもたらした孤立や孤独から生じてくるさまざまな社会的問題、たとえば介護の問題や児童虐待などの問題に対応することが求められている。一方でより質の高いサービスを提供するためには、組織を基盤にソーシャルワークを展開していく必要がある。ソーシャルワーク専門職は最終的に、利用者に対して直接的にサービスを提供していくにせよ、まずは彼ら彼女ら自身が所属する施設や機関自体が、安定したサービスを提供できる「体制」になっていなければならない。この授業は、受講者自身によるプレゼンテーションやグループワークを通して、自らが所属する組織の安定化や活性化、さらには新たなサービスの開発をどのようにおこなっていけばよいか、各自理解していくことを目的とする。	講義 21 時間 演習 9 時間 メディア
	ソーシャルワークの理論と実際	ソーシャルワーカーは、クライアントの生活課題の解決に資するソーシャルワーク実践をするために、自らの実践経験についてソーシャルワークの目的、価値、知識、技術と照らし合わせ、省察的实践を繰り返す必要がある。 本科目では、講義や演習を通じて、ソーシャルワークの価値、倫理、ソーシャルワーク理論を確認するとともに、自らの実践事例についてソーシャルワーク理論の観点からプロセス・レコードを作成することにより言語化する。また、プロセス・レコードを活用したスーパービジョンを通じて、自らのソーシャルワーク実践について省察し、その課題について明らかにし、課題解決に向けた具体的かつ実際的なアクションプランを立案する。	講義 18 時間 演習 12 時間 メディア
	メディカルソーシャルワーク論	医療ソーシャルワーカー (Medical Social Worker) は、複合化・複雑化した生活課題の解決に向けて組織内の多職種や地域の関係機関と連携し、患者の生活に必要なサービスや支援を途切れなく提供する役割を担っている。 本科目では、医療ソーシャルワーカーによる実践事例をもとに、講義、演習、事例研究を通じて、保健医療領域におけるチーム医療の意義、チームモデルの形態と特徴、地域連携の意義と方法、それらから生じる倫理的ジレンマやコンフリクトマネジメントについて学び、組織や地域において IPW (専門職連携実践) を推進させる医療ソーシャルワーカーの在り方や課題について考察する。	講義 18 時間 演習 12 時間 メディア
	高齢社会の福祉医療	本科目は、講義とグループディスカッションで構成される。 講義は、高齢社会における医療・福祉の課題と施策、高齢者の各種健康リスクについてリハビリテーション医学に基づいて説明する。	講義 18 時間 演習 12 時間 メディア

		<p>グループディスカッションは、個人またはグループでテーマを決めてプレゼンテーション（課題プレゼンテーション）を行いディスカッションする。</p> <p>グループディスカッションを経て、最終的にレポートにまとめ提出する（課題レポート）。各授業の最後に、課題プレゼンテーションに向けた、質問や相談の時間を設ける。</p>	
高齢者福祉とマネジメントⅠ	<p>高齢者福祉サービスの制度的変遷を踏まえ、各種サービスの特性、福祉専門職の役割と組織マネジメントについて地域包括ケアの視点で理解することを目的とする。介護保険制度導入以降、在宅サービスや高齢者施設等の高齢者福祉サービスには地域包括ケアの視点が求められる中、福祉専門職の人材確保・育成や組織マネジメントに関する現状と課題を文献とともに、事例調査し、分析していく。具体的には事業運営や地域社会におけるケアマネジメントに関する課題の理解、専門職の人材不足の原因や人材育成のための研修システムなどに関してデータをもとに理解し、具体的な事例を検討する。それらを踏まえ、課題を整理し、考察する。</p>	<p>講義 24 時間 演習 6 時間 メディア</p>	
高齢者福祉とマネジメントⅡ	<p>「高齢者福祉とマネジメントⅠ」との連続講義である。「高齢者福祉とマネジメントⅠ」で学習した高齢者福祉サービスの現状と課題に基づき、課題を解決するための方策について事例検討も含め行う。具体的には①人材不足の課題に対し、どのような対応ができるか。専門職研修制度のあり方の検討。②ケアマネジメントを踏まえたサービス提供のあり方と事業運営の課題解決の検討。これらを通し高齢者福祉サービスが地域包括ケアシステムの中で果たす役割について理解する。</p>	<p>講義 24 時間 演習 6 時間 メディア</p>	
高齢者介護施設のリスクマネジメント	<p>本科目は、講義とグループディスカッション、フィールドワークで構成される。</p> <p>講義は、高齢者介護施設の組織的リスクマネジメントの手法について解説する。講義内容に関連したグループディスカッションの回を設ける。</p> <p>フィールドワークは、第2回目でテーマを決め、第7・8回で課題分析結果と改善プランについて学生による報告発表を行う。その後、それぞれのフィールドでプランを実践し、第13・14・15回で結果を報告発表する（課題プレゼンテーション）。フィールドのない方は裁判事例をもとに知見をまとめる課題についてプレゼンテーションを行なう。</p> <p>最終的にフィールドワークをレポートにまとめ提出する（課題レポート）。</p>	<p>講義 24 時間 演習 6 時間 メディア</p>	
社会福祉施設論	<p>包括的支援体制の推進や社会福祉法人改革の進展などがあり、社会福祉施設に求められる役割は大きく変わっている。本科目では、講義とディスカッション、事例研究を組み合わせながら、地域の中で利用者に良質なサービスを提供するだけでなく、地域で必要とさ</p>	<p>講義 24 時間 演習 6 時間 メディア</p>	

		れる社会福祉施設の実践はどうあるべきかについて学ぶ。また利用者のみならず、働き手からも選ばれる施設という観点からも現状と課題を整理し、今後の社会福祉施設のあり方について考察する。 なお、本講における「社会福祉施設」とは、福祉サービスを提供する事業所を指す。	
	福祉人材養成論	福祉サービスにおいて「ヒト」は重要な経営資源であり、そのサービスの質も提供者によって左右される。一方、実践現場では深刻な人手不足も背景にあり、外国人や高齢者、未経験者など多様な人材が働いている現状がある。本科目では、特に外国人介護職員に焦点を当てながら、多様な人材がやりがいをもって働き、組織の中で役割を果たすための養成方法やキャリアパスの構築について、講義とディスカッション、事例研究を通して学び、自組織における展開を考察する。	講義 24 時間 演習 6 時間 メディア
	スーパービジョンの理論と展開	福祉医療分野の組織に従事する管理的な立場にあるソーシャルワーカーは、人材育成に資する支援環境開発・改善の観点から、組織内におけるスーパービジョン体制を構築する必要がある。 本科目では、ソーシャルワーク・スーパービジョンの目的、機能、形態について、講義、演習を通じて学ぶ。また、ソーシャルワーク・スーパービジョンにおける管理的機能に着目し、スーパービジョン体制の構築に必要な支援環境開発・改善の視点について学び、自らのスーパービジョン実践について振り返ることで、組織内において効率的・効果的なスーパービジョン体制の構築やその課題について考察する。	講義 21 時間 演習 9 時間 メディア
	フィールドワーク特講	ビジネスプランを履修するための前段階として、現実の組織を題材とし「課題発見力」「課題解決力」の基礎理論を学習する。ここでは福祉施設や機関、病院、さらには障害者の雇用を積極的におこなっている特例子会社などで実際にインターン活動をおこない、現状を分析し、それぞれの組織の強みや実態を学ぶとともに、仮説を立て未来に向けて発生する可能性のある課題を新たに発見する。そのうえで受講生はグループになり、ディスカッションをおこなうことによって、「強み」を活かした組織づくり、または具体的な「課題」の解決を通じた組織のあり方について、具体的な提案をプレゼンテーションにまとめる。 (オムニバス方式／全 15 回) (6 田嶋英行／7 回) 第 2～4 回：課題解決型インターンシップについての講義・ケーススタディ 第 5～8 回：第 1 回インタビュー調査の計画と実施 (7 鳥羽美香／5 回) 第 10～14 回：第 2 回インタビュー調査の計画と実施 (6 田嶋英行 鳥羽美香／3 回) (共同)	講義 21 時間 演習 9 時間 オムニバスオムニバス方式・共同 (一部)・メディア

		第 1 回：課題解決型インターンシップの全体像 第 9 回：課題解決の報告 第 15 回：授業の振り返り	
医療 マネ ジ メン ト	医療管理学Ⅰ	医療の求める新たな分野である医療政策、医療経営、医療管理、および医療コミュニケーション分野における高度な専門職業人を育成するために、疫学、統計学を基盤にして、医療・保健福祉に関する幅広い問題について、様々な資料をベースに討論形式で学ぶ。医療管理学の範囲は多岐に渡り、医療リスク管理分野、医療情報分野、医療経済分野、保健医療政策分野及び社会福祉分野などを含む地域包括ケア（地域医療）などが含まれる。講義形式にて行う。	講義 27 時間 演習 3 時間 メディア
	医療管理学Ⅱ	医療における諸問題について、ケーススタディをもとに、各ケースでどのような問題点があるかを発見し、その問題点について討論形式で、課題解決を図っていく。テーマは毎回異なっており、医療管理学Ⅰで学んだ情報と知識を活用し、「医療安全」や「チーム医療とリーダーシップ」「貧困と健康格差」「新感染症対策」など幅広い問題を掘り下げていく。	講義 18 時間 演習 12 時間 メディア
	疫学・公衆衛生学特論	医学とは個人の疾病管理と治療を対象とした科学であるのに対し、集団を対象として疾病の管理や予防を研究する科学が公衆衛生である。その問題は多岐にわたり、感染症から癌、糖尿病、循環器疾患などの生活習慣病といった多くの健康対策課題がある。また「長寿」という概念は「健康寿命」という新たな観点で注目されてきた。公衆衛生の課題は常に時代と共に変わり、健康概念も従来の単一疾患単一病態モデルから、複数疾患複数病態モデルへと移り、古典的公衆衛生学も新公衆衛生学へと移行しつつある。また感染症等はグローバルな観点で洞察する力が求められている。本講座ではグローバルな視点から健康をマネジメントできるプロフェッショナルとしての基本を学ぶことができる。	講義 27 時間 演習 3 時間 メディア
	グローバルヘルスⅠ	多様な文化・地域における保健医療を俯瞰し、共通概念としての健康とは何かを追求することを目的とする。世界の健康課題の現状と、保健・医療・福祉システムおよび社会経済文化など人々の健康に影響を及ぼす諸要因に関する基本的な事項と、地球規模の健康課題解決に向けた国際社会の対応について講義・演習を通じて学修する。 具体的には、保健医療福祉政策・制度に関する諸外国（先進国・開発途上国を含む）間の比較検討と、国際組織等（UN、JICA、NGO 等）の活動の紹介等を行う。 （オムニバス方式／全 15 回） （9 藤谷克己／1 回） 授業の概要説明 （33 堀井聡子／13 回）	講義 27 時間 演習 3 時間 オムニバス方式・共同（一部）・メディア

		保健医療福祉政策・制度に関する諸外国（先進国・開発途上国を含む）間の比較検討と、国際組織等（UN、JICA、NGO 等）の活動の紹介等 （9 藤谷克己・33 堀井聡子/1回） 授業のまとめとレビュー	
	グローバルヘルス II	グローバルヘルスに関する主要なトピックを1つ選び（例：食と栄養、感染症、母子保健、高齢者と健康、都市における健康問題、健康格差、異文化とケア等）、関連文献等から情報を収集し（グローバルヘルス I 履修者は講義内容でも可）、発表（プレゼン）とそれに関する討論をおこなう。これを通してグローバルな視野で健康に関する課題発見と課題解決の能力を身につける。 またオプションとしてカナダでの10日間程度の海外フィールドワークを通じて、主にカナダでの実際の医療現場ないしは福祉現場で見学実習を中心に行う。午前中はヨーク大学での英語集中講義に参加し、午後はフィールドワークに臨む。見学先は主にトロント地区を中心に、カナダがん協会認定がん総合センター、トロント総合病院、トロント小児病院、アルツハイマー協会や郊外の老人ホームなどである。フィールドワーク実施のための事前授業（5回）および帰国後のフォローアップ講習（1回）を行う。	講義 18 時間 演習 12 時間 共同・メディア
	メディカル人材開発論 I	少子高齢化が進む労働供給制約の中で、安定して質の高い医療者を排出し続けることが求められている。現在、将来に向けて必要とされる医療者像を明らかにし、必要とされる役割を実践できる医療者を効果的かつ効率的に育成するうえで有効な教授設計を教育工学の視点から学ぶ。また、プロフェッショナリズムを重視した自律的自己成長の視点、医療者のキャリア開発、多職種との関係性創りなどの人材の内面と外面の開発について、講義とグループワークで学ぶ。	講義 24 時間 演習 6 時間 メディア
	メディカル人材開発論 II	多様な医療実践の期待役割と場を想定し、人材開発の戦略を立案する。 戦略立案の過程において、対象医療職種以外や一般企業などにおける人材開発の考え方やシステムを参考にディスカッションを深め、How To に終わらない人材開発のプログラムを提案する。	講義 21 時間 演習 9 時間 メディア
	メディカル人材開発論 III	変化する保健医療福祉環境の中で、多様性のある（国際化を含む）患者や家族へのケアの必要性が高まってきている。看護師、理学療法士などの国家資格を持った医療従事者や、保育や教育、介護などの福祉事業におけるキャリア選択を、医療知識を集約させて実践的に考える。社会の人々の健康やそれに携わる経営をも視野に入れ、よりよい医療を支えるための、キャリアアップについて考える。講義とグループワークで行い、本授業を通じて、思考し表現する力を高める	講義 21 時間 演習 9 時間 メディア
	メディカル人材開発論	メディカル人材開発論IIIの学びを踏まえ、「患者・家族中心の志向」	講義 21 時間

		IV	「知識と経験を融合した高い実践力」「専門性の追求と臨地や福祉に役立つ人材」という目的のもと、質の高いケアを提供するための実践や教育について考える。実践は、各々の専門職の場でのフィールドワークと教育実践を含み、理論と実践の両面から考え、最終的に教育プログラムを構築する。本授業を通じて、問題解決能力を身につける。	演習 9 時間 メディア
		国際医療人材開発論 I	世界では、SDGs（持続可能な開発目標）の推進やそのターゲットのひとつとして、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）「全ての人が適切な予防、治療、リハビリ等の保健医療サービスを、支払い可能な費用で受けられる状態」の達成の他、COVID-19 対応等、様々な国際連携が喫緊の課題となっている。本授業では、国連（UN）、世界保健機関（WHO）をはじめとする国際機関、政府・民間組織の役割を学び、国境を超えた医療と健康の課題共有を行うとともに、国内外で共働する医療従事者の活動について、ゲストスピーカーも交えて紹介し、履修者とのディスカッションなどを行いながら理解を深める。	講義 24 時間 演習 6 時間 メディア
		国際医療人材開発論 II	国際医療人材開発論 I を受け、下記についてケース・スタディとして学び、グループワーク等を通じて課題を検証し、議論と提案を行う。 1. 北米・欧州・アジア・アフリカ地域における医療現場の事例 2. 高所得国／中低所得国における、医療の質改善の取り組み 3. 日本在住の外国人への医療と海外での健診・治療等、インバウンド／アウトバウンドの医療の現状と今後の可能性 4. 地域別／分野別／職種別の国際医療人材の役割と未来	講義 24 時間 演習 6 時間 メディア
		病院会計	病院会計は企業会計と多くの差異がある。自費診療以外の収入は、社会保険診療報酬という国が決めた診療点数によって決まる。また、医療法により事業についても制約がある。授業形態はスクール形式とグループワーク形式をミックスして行い、企業会計と病院会計の差異を理解するとともに診療科目ごとの特徴なども説明する。施設管理者や事務長、チームリーダーが必要となる会計知識について説明し、履修者相互のディスカッションを通じて理解を深める。	講義 24 時間 演習 6 時間 メディア

学校法人文京学院 設置認可等に係る組織の移行表

令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由	
文京学院大学				文京学院大学					
外国語学部				外国語学部					
英語コミュニケーション学科	260	-	1,040	英語コミュニケーション学科	260	-	1,040		
経営学部				経営学部					
経営コミュニケーション学科	130	-	520	経営コミュニケーション学科	130	-	520		
マーケティング・デザイン学科	130	-	520	マーケティング・デザイン学科	130	-	520		
人間学部				人間学部					
コミュニケーション社会学科	60	-	240	コミュニケーション社会学科	60	-	240		
児童発達学科	130	-	520	児童発達学科	130	-	520		
人間福祉学科	110	-	440	人間福祉学科	110	-	440		
心理学科	100	-	400	心理学科	100	-	400		
保健医療技術学部				保健医療技術学部					
理学療法学科	80	-	320	理学療法学科	80	-	320		
作業療法学科	40	-	160	作業療法学科	40	-	160		
臨床検査学科	80	-	320	臨床検査学科	80	-	320		
看護学科	100	-	400	看護学科	100	-	400		
計	1,220		4,880	計	1,220		4,880		
文京学院大学大学院				文京学院大学大学院					
外国語学研究科				外国語学研究科					
英語コミュニケーション専攻(M)	10	-	20	英語コミュニケーション専攻(M)	10	-	20		
経営学研究科				経営学研究科					
経営学専攻(M)	30	-	60	経営学専攻(M)	30	-	60		
人間学研究科				人間学研究科					
人間学専攻(M)	10	-	20	人間学専攻(M)	10	-	20		
心理学専攻(M)	20	-	40	心理学専攻(M)	20	-	40		
保健医療科学研究科				保健医療科学研究科					
保健医療科学専攻(M)	20	-	40	保健医療科学専攻(M)	20	-	40		
看護学研究科				看護学研究科					
看護学専攻(M)	10	-	20	看護学専攻(M)	10	-	20		
計				計					
	100	-	200		150	-	300		
				専門職大学院 福祉医療マネジメント研究科 福祉医療マネジメント専攻(P)					研究科の設置 (認可申請)
					50	-	100		